

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	13	解剖生理学
1年	16	人体構造と機能Ⅲ
1年	32～33	救急症候学Ⅲ
1年	46～54	救急救命シミュレーションⅠ
2年	69～75	救急救命シミュレーションⅢ
2年	76～80	救急救命シミュレーションⅣ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-01			
	●	●							
科目名	解剖生理学				単位認定者	鈴木 裕一		授業内課題等	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		16 時間
				授業形態	講義	授業回数			8 回
授業の概要	生命の最小単位は細胞であり、ヒトの身体は数十兆個の細胞から構成されている。人体を構成する要素について、細胞、組織、器官、体液等の仕組みや機能、また、体表からみる人体の構造についての基礎的な知識を修得する。また、生命を維持するために必要な仕組みに関して、栄養と代謝、ホメオスタシスの観点から学ぶ。人体の構造、構成、生命維持に係る基礎知識をもとに、人体を構成する各器官の基本的構造と機能及び相互関係について、系統的かつ総合的に学修する。								
到達目標	人体の正常な形態や構造を、ミクロからマクロに及ぶ観点で理解する。								
学修者への期待等	人体の構造と機能について学ぶことは救急救命士になる上で極めて重要になってくる。十分な理解とともに体得して欲しい。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	解剖生理学 (序論)				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
2	細胞について				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
3	組織について (上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
4	血液① (成分と機能)				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
5	血液② (血液凝固、血液型)				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
6	神経系について				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
7	循環器について				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
8	消化器について				事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。			30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()								
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『新版からだの地図帳』佐藤達夫監修、講談社								
参考文献	適宜、参考資料を配付する。								
備考	小テストは授業内に行う。解答用紙を回収後に問題の説明を行い自己採点させる。採点后答案用紙は返却する。 60点に満たない学生に対しては再テストを行う場合がある。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
EM-1-HAP-04

科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位 認定者	平山 和美		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			

授業の概要
生殖系、内分泌系、血液・免疫系、泌尿系、感覚系について学修する。生殖系は、男性生殖器と女性生殖器、性周期の知識を修得する。内分泌系では、内分泌と外分泌、内分泌の器官とその役割について、血液・免疫系では、血液、血球、血漿、血液型、骨髄、脾臓、止血と凝固、免疫について学ぶ。泌尿系では、腎臓や尿路等、泌尿系を構成する器官とその役割、尿生成の過程について、感覚系では、感覚系の構成と役割、視覚、聴覚・平衡感覚、嗅覚、味覚、体性感覚等の知識を身につける。

- 到達目標**
1. 泌尿器系、及び生殖系構造と機能が説明できる。
 2. 内分泌系の構造と機能が説明できる。
 3. 視覚器官の構造と機能が説明できる。
 4. 血液の成分と機能が説明できる。
 5. 出血と止血について説明ができる。視覚器官の構造と機能が説明できる。
 6. 皮膚、及び皮膚感覚（触覚、痛覚、圧覚、温度覚）の構造と機能が説明できる。
 7. 耳、鼻、咽頭、及び耳鼻咽頭感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）の構造と機能が説明できる。

学修者への期待等
各講義の予習、及び復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	泌尿器系の構造と機能	事前学修：第1回講義 内容の予習 事後学修：第1回講義 内容の復習	30	30	平山 和美
2	泌尿器系、及び生殖器系の構造と機能	事前学修：第2回講義 内容の予習 事後学修：第2回講義 内容の復習	30	30	
3	内分泌系の構造と機能	事前学修：第3回講義 内容の予習 事後学修：第3回講義 内容の復習	30	30	
4	生体の防御機構、及び視覚器官の構造と機能	事前学修：第4回講義 内容の予習 事後学修：第4回講義 内容の復習	30	30	
5	血液の成分と機能	事前学修：第5回講義 内容の予習 事後学修：第5回講義 内容の復習	30	30	皆川 忠徳
6	出血と止血の病態	事前学修：第6回講義 内容の予習 事後学修：第6回講義 内容の復習	30	30	
7	皮膚、及び皮膚感覚（触覚、痛覚、圧覚、温度覚）の構造と機能	事前学修：第7回講義 内容の予習 事後学修：第7回講義 内容の復習	30	30	高橋 隼也
8	耳、鼻、咽頭、及び耳鼻咽頭感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）の構造と機能	事前学修：第8回講義 内容の予習 事後学修：第8回講義 内容の復習	30	30	橋本 省

アクティブ・ラーニング
該当なし
該当あり：キーワード（ ）

教科書
『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版

参考文献
資料の配布を行うので、その内容について良く学修して下さい。

備考
講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
EM-2-ESP-04

科目名	救急症候学Ⅲ				単位 認定者	横山—亜矢		評価の 方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	救命救急の現場では、疾患単位の知識と症候学の知識の両者がそろって初めて傷病者に対する理論的で確実な対応が可能となる。特に、腹痛をきたす疾患はきわめて多く、腹痛症状は救急搬送において最も頻度の高い症状のひとつであり、各所見を観察し、適切な処置を施す必要がある。「救急症候学Ⅲ」では、主に腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	症候の理解を深め、バイタルサインや観察と結びつけられ一つの症候にとらわれることなく、病態の緊急度・重症度を説明できる。									
学修者への期待等	頻度の高い症状のため、テキストを熟読し内容を整理して理解を深めてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	消化系臓器について				事後学修：テキスト第1章の「消化系」を復習する				60	0
2	腹痛① 発症機序				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
3	腹痛② 原因疾患、部位				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
4	腹痛③ 既往歴				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
5	腹痛④ 随伴症候				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
6	腹痛⑤ 緊急度・重症度の判断、現場活動				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
7	吐血・下血① 定義・概念、原因疾患				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30
8	吐血・下血② 病態				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30
9	吐血・下血③ 判別が必要な病態、緊急度・重症度の判断				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30
10	吐血・下血④ 現場活動				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	腰痛・背部痛① 定義・概念、原因疾患	事前学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み復習をする	30	30
12	腰痛・背部痛② 緊急度・重症度の判断	事前学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み復習をする	30	30
13	腰痛・背部痛③ 現場活動	事前学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み復習をする	30	30
14	体温の役割について	事前学修：テキスト152、645、822ページを読み予習をする 事後学修：テキスト152、645、822ページを読み復習をする	30	30
15	体温上昇① 定義・概念、発症機序	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
16	体温上昇② 病態、発熱の分類と種類	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
17	体温上昇③ 原因疾患	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
18	体温上昇④ 緊急度・重症度の判断、現場活動	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
19	救急症候学Ⅲのまとめ① 腹痛、吐血・下血	事前学修：腹痛、吐血・下血の項目を再復習する	60	0
20	救急症候学Ⅲのまとめ② 腰痛・背部痛、体温上昇	事前学修：腰痛・背部痛、体温上昇の項目を再復習する	60	0
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
参考文献	なし			
備考				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
EM-2-CLP-01

科目名	救急救命シミュレーション I				単位 認定者	田中 耕一		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	5 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	150 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	75 回			

授業の概要
 自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営むことができる救急救命士としての自覚を養う。傷病者の苦痛の軽減や症状の悪化防止に必要な観察法や応急処置等のシミュレーションを行い、救急救命処置の基本となる傷病者の観察と判断、応急処置に必要な知識と技術搬送法を修得する。また、傷病者の基本的観察や気道管理、呼吸管理、体位管理、体温管理等に必要な資材、機材の使用法や注意点を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術の基礎を、シミュレーションを通して身につける。

到達目標
 ・救急隊員としての基本的な役割を理解し、傷病者に対して安全かつ適切に救急活動を行うことができる。
 ・救急活動の基本となる観察・判断・処置・評価について理解し、状況に応じた対応を説明できる。
 ・救急救命士として必要となる基礎的な知識および技術を修得する。
 ・人間愛と思いやりの心を持ち、傷病者や家族の立場に配慮した救急活動の在り方を理解する。

学修者への期待等
 ・演習は、ペアまたは小グループで行う。
 ・授業は主に実技を実施するので特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。
 ・救急救命士標準テキストを持参する。
 ・演習で使用する訓練用人形は、実際の傷病者を想定して取り扱い、救急活動に携わる者として適切な態度で臨むこと。
 ・学生同士で積極的にコミュニケーションを図り、協力して演習に取り組むこと。
 ・事前にテキストやUNIPAに掲載された資料を事前に確認し、主体的に演習へ参加することを期待する。

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	授業ガイダンス① 規律要領の説明 訓練礼式の基準、動作の基本、行動の基本	事前学修：テキスト第三編第1章「救急活動時のコミュニケーション」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
2	授業ガイダンス② 規律要領の実践 集合整列要領、各個訓練、号令等の指揮		30	30	
3	救急資器材の確認 救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死戦期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急蘇生法」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
4	救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死戦期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
5	救急蘇生法 成人・小児・乳幼児（一般市民用：人工呼吸、死戦期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に学生の実技と効果確認（指導者役・受講生役） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	救急蘇生法（一般市民用：気道異物除去、止血法、固定法、三角巾の使用法、体位管理、体温管理）	事前学修：テキスト第三編第2章「救急蘇生法」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
7	救急蘇生法（一般市民用：搬送法、熱傷の手当、熱中症の手当、法的責任、感染防止）		30	30	
8	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「観察総論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 橋本 美菜
9	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技（グループディスカッション）	事前学修：テキスト第三編第2章「全身状態の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
10	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技と効果確認（グループディスカッション・効果確認）		30	30	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
11	傷病者の観察項目 （主に意識レベル、呼吸、循環、全身）	事前学修：テキスト第三編第2章「観察総論」～「神経所見の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
12	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「局所の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
13	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に学生の実技と効果確認（グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
14	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「神経所見の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
15	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に学生の実技と効果確認（グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、 血圧計、体温計、心電図モニター） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「資器材による観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
17	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、 血圧計、体温計、心電図モニター） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
18	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「緊急度・重症度」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
19	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
20	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
21	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「観察総論」～「緊急度・重症度」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
22	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
23	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
24	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
25	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
26	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜	
27	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30		
28	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に教員からの解説と展示		30	30	田中 耕一 横山 亜矢 菊地 芽唯	
29	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30		
30	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30		
31	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に教員からの解説と展示		30	30		
32	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 菊地 芽唯	
33	重症外傷傷病者に対する活動（状況評価・初期評価・全身観察） 主に教員からの解説と展示		事前学修：テキスト第Ⅲ編第6章「外傷の現場活動」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 橋本 美菜 菊地 芽唯
34	重症外傷傷病者に対する活動（状況評価・初期評価・全身観察） 主に学生の実技 （グループディスカッション）			30	30	
35	重症外傷傷病者に対する活動（状況評価・初期評価・全身観察） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
36	体位管理、体温管理、傷病者搬送（担架、ストッレ チャー、救急車） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第2章「救急搬送」で 予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅
37	体位管理、体温管理、傷病者搬送（担架、ストッレ チャー、救急車） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
38	重症外傷傷病者に対する活動（全身観察・重点観 察） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第6章「外傷の現場活 動」で予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
39	重症外傷傷病者に対する活動（医療機関選定・車内 活動） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
40	重症外傷傷病者に対する活動（車内活動・詳細観 察・継続観察） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
41	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第2章「救急蘇生法」 で予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
42	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
43	重症外傷傷病者に対する活動（車外救出・ヘルメッ ト離脱） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第6章「外傷の現場活 動」で予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
44	重症外傷傷病者に対する活動（車外救出・ヘルメッ ト離脱） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
45	重症外傷傷病者に対する活動（車外救出・ヘルメッ ト離脱） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
46	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
47	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
48	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「観察総論」～「緊急度・重症度」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
49	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
50	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
51	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、カプノメータ 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅
52	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、カプノメータ 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
53	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第6章「外傷の現場活動」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
54	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
55	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
56	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一
57	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（基本動作） （グループディスカッション）		30	30	
58	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（応用動作） （グループディスカッション）		30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
59	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（全般） （グループディスカッション）		30	30	
60	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
61	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使用 主に教員からの解説と展示		30	30	
62	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使用 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 横山 亜矢 菊地 芽唯
63	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡要領) 適応・判断・病院連絡 主に教員からの解説と展示		30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
64	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡要領) 適応・判断・病院連絡 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
65	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡要領) 適応・判断・病院連絡 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
66	血糖測定・ブドウ糖投与 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭 橋本 美菜 菊地 芽唯
67	血糖測定・ブドウ糖投与 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
68	心停止前傷病者への輸液 主に教員からの解説と展示		30	30	
69	心停止前傷病者への輸液 主に学生の実技 (グループディスカッション)		30	30	
70	心停止前傷病者への輸液 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
71	特定行為を含む救急隊活動② (外因性) 主に教員からの解説と展示		30	30	
72	特定行為を含む救急隊活動② (外因性) 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
73	特定行為を含む救急隊活動③ (内因性) 主に教員からの解説と展示		30	30	
74	特定行為を含む救急隊活動③ (内因性) 主に学生の実技 (グループディスカッション)		30	30	
75	特定行為を含む救急隊活動③ (内因性) 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	

アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技、グループディスカッション）
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第11版』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社 『JPTECガイドブック 改訂第2版補訂版』一般社団法人 JPTEC協議会編著、へるす出版社 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治（総監修）、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治（総監修）、晴れ書房
参考文献	『E. M. T Support Book』山本保博（監修）、東京法令出版 『救急蘇生法の指針2020 医療従事者用』へるす出版 『救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編』へるす出版
備考	授業の進捗状況および理解度に応じて、実施順序等を変更する場合がある。各項目の最終日には、学修効果の確認を行うことがある。授業時の服装は、特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。公安職および医療従事者をを目指す学生としてふさわしい整容を心掛けて授業に臨むこと。フィードバックは各項目終了後、適宜実施する。授業内課題は実技試験（20%）とする。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

- ・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を指導する。
- ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
EM-2-CLP-03

科目名	救急救命シミュレーションⅢ			単位認定者	堀口 雅司		評価の方法	試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数		5 単位	授業内課題等	20 %
					授業形態	演習		授業時間数	150 時間	受講態度
								授業回数	75 回	
授業の概要	救急隊を編成して症候別の想定によるシミュレーションを行い、「救急救命シミュレーションⅠ」「救急救命シミュレーションⅡ」で修得した技術を向上させる。一連の救急救命活動について、出場、救急現場、観察、処置、搬送、医療機関収容等、総合的な訓練を実施し、現場での安全管理、チーム医療活動等についても体得する。具体的な救急救命活動のシミュレーションにより、救急救命士として活動できる、実践的な能力や技術を身につける。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションⅠからⅡで修得した知識、技術を踏まえ、緊急度・重症度の判断力を中心とした内容を修得する。 ・各班でプロトコール・活動基準を考慮した救急現場活動を理解する。 ・総合的な訓練、振り返り、再訓練等を実施し、救急救命士としての活動能力を向上させる。 ・授業のテーマに沿った想定に対し、実技からフィードバックまでを学生主体で実施し評価する。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・演習はペアまたは小グループで行う。 ・授業は主に実技を実施するので指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。 ・救急救命士標準テキストを持参する。 ・演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。 ・事前にテキストやUNIPAへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。 									
回	授業計画			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	基本手技・スキルチェック (気道確保、酸素投与、人工呼吸、声門上気道デバイスを用いた気道確保、気管挿管等) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)			事前学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。		60	60	堀口 雅司 横山 亜矢		
2	基本手技・スキルチェック (胸骨圧迫、電気ショック、静脈路確保、ブドウ糖投与等) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)					60	60			
3	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患(腰痛・腹痛) (的確な説明と同意、安全な除細動) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)					60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜		
4	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・外因性疾患(窒息・急性中毒含む) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)					60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜		
5	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患・外因性疾患 (的確な気道確保) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)					60	60			

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	重症外傷傷病者に対する救急隊活動④ 基本手技・外傷想定(溺水を含む) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)	事前学修:シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修:実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
7					
8	想定訓練(心肺停止・気道・呼吸系疾患) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)	事前学修:シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修:実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	
9	想定訓練(内因性疾患) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)		60	60	
10	想定訓練(外因性疾患) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)		60	60	
11	グループ討議 現場活動について (出動～車内収容まで)	事前学修:想定訓練等の振り返りを各グループ毎に行う。 事後学修:報告書を提出するため実施した症例をテキストで復習しておくこと。	60	60	
12	グループ討議 現場活動について (車内活動から医師への引継ぎまで)				
13	救急車内での高度活動① (救急車内高度気道確保・MC無線指示下での実施) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修:テキストにて該当ページを予習する。 事後学修:実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	
14	救急車内での高度活動② (静脈路確保・薬剤投与・MC指示連携) (グループディスカッション・効果確認)				
15	救急車内での高度活動③ (車内除細動・継続観察・AED～手動除細動器操作) (グループディスカッション・効果確認)				

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	救急活動基準・プロトコール・MC連携の理解 (メディカルコントロール体制、特定行為の法的根拠・指示基準)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
17					
18	救急車内での高度活動④ (搬送先選定) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
19	救急車内での高度活動⑤ (医療機関選定基準) (グループディスカッション・効果確認)				
20	救急車内での高度活動⑥ (地域MC連携) (グループディスカッション・効果確認)				
21	救急救命士の倫理的問題・法的責任・DNAR対応 (インフォームドコンセント・救急現場での倫理判断・終末期)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司
22					
23	想定訓練 (救急現場から医療機関収容までの一連の流れ) (出場～観察・処置) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
24					
25					
26	最新救急医療システムと救急救命士の将来像 (ACLSガイドライン改訂・AI活用・遠隔MC・地域医療貢献)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
27					
28	想定訓練 (救急現場から医療機関収容までの一連の流れ) (処置・搬送～収容) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 佐藤武諭毅 橋本 美菜
29					
30					
31	総合実技確認 (全基本手技の最終確認：気道・循環・外傷・MC連携等)		60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
32					
33					
34					
35					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
36	想定訓練（心肺停止・CPA） 心肺停止に対する一連の救急活動シミュレーション）	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「救急病態生理学」心肺停止の病態・蘇生アルゴリズムを予習する。 事後学修：CPAシナリオの振り返りと該当テキスト項目を確認する。	60	60	堀口 雅司
37	想定訓練（心肺停止・気道・呼吸系疾患）多様な原因によるCPAシナリオ（溺水・窒息・心疾患）				
38	想定訓練（内因性疾患・呼吸困難・胸痛）気管支喘息・COPD・肺炎・狭心症・心筋梗塞の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「救急病態生理学」呼吸系疾患の病態を予習する。 事後学修：想定シナリオの自己評価シートを記入・提出する。			
39	想定訓練（外因性疾患・熱傷・外傷）熱傷・電撃傷・刺傷の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第6章「外傷救急医学」熱傷・電撃傷の評価・処置を予習する。 事後学修：熱傷面積計算・処置優先順位を復習する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
40	想定訓練（産婦人科・周産期疾患） 妊娠・正常分娩・異常分娩の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「疾病救急医学」14 妊娠・分娩と救急疾患」を精読する。 事後学修：正常・異常分娩の判断基準と処置を復習する。			
41	想定訓練（小児疾患・ショック） 小児救急（熱性痙攣・小児CPA）	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「疾病救急医学」13 小児と救急疾患」を予習する。 事後学修：小児CPAと成人CPAの違いを比較整理する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
42	想定訓練（気道閉塞解除・呼吸不全） 気道閉塞・呼吸不全・上気道疾患の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「救急病態生理学」呼吸不全の病態を予習する。 事後学修：呼吸不全の分類と処置方針を復習する。			
43	想定訓練（ショック・心原性） 急性心不全・心原性ショックの救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「ショックの病態生理」各分類を予習する。 事後学修：心原性ショックの観察ポイントと処置を復習する。			
44	想定訓練（重症脳障害・脳血管障害） 脳卒中・重症脳障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「重症脳障害の病態」・第5章「脳血管障害」を予習する。 事後学修：CPSSを用いた脳卒中スクリーニングの手順を復習する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
45	想定訓練（意識障害・頭痛・JCS/GCS評価） 意識障害・頭痛・中枢性疾患の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「救急症候学」意識障害・頭痛の項目を予習する。 事後学修：意識障害の鑑別疾患（AIUEO TIPS）を整理する。			

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
46	想定訓練 (環境障害・低体温・熱中症) 熱中症・低体温症・高山病の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第7章「環境障害」熱中症・低体温症の項目を予習する。 事後学修：熱中症の重症度（Ⅰ～Ⅲ度）分類と処置手順を復習する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
47	想定訓練 (交通事故・脊髄損傷) 交通事故・脊髄損傷傷病者の救急隊活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第6章「脊髄損傷」の項目とJPTECガイドブックを予習する。 事後学修：脊髄損傷の観察・固定手順を復習する。			
48	想定訓練 (痙攣・運動麻痺・中枢性めまい) 内因性疾患 (神経系症候) の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「救急症候学」痙攣・めまい・麻痺の項目を予習する。 事後学修：プロラム® (口腔用液・抗痙攣) の対応手順等を確認する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
49	想定訓練 (代謝性障害・低血糖) 低血糖・糖尿病性昏睡の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「代謝・内分泌系疾患 (糖尿病)」を予習する。 事後学修：低血糖・高血糖の判別と処置フローを復習する。	60	60	
50	想定訓練 (アナフィラキシー・ショック) アナフィラキシー・アレルギー反応の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「アナフィラキシーショック」・第5章「アレルギー疾患」を予習する。 事後学修：アドレナリン投与の適応・禁忌・手順を復習する。	60	60	
51	想定訓練 (一過性意識消失・失神) 失神・一過性意識消失発作の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「一過性意識消失・失神」を予習する。 事後学修：失神の緊急度判定フローとバイタル変化パターンを復習する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
52	想定訓練 (体温上昇・発熱・感染症) 高熱・感染症疑い傷病者の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「発熱」・第5章「感染症」を予習。感染対策手順を確認する。 事後学修：感染性疾患の観察ポイントと感染防護の手順を復習する。			
53	想定訓練 (呼吸困難・動悸・胸痛の鑑別) 主訴別の鑑別疾患アプローチ想定	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「呼吸困難・動悸・胸痛」の鑑別疾患を予習する。 事後学修：各主訴に対する観察・処置の優先フローを整理する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
54	想定訓練 (骨折・脱臼・四肢外傷) 四肢外傷・骨折・脱臼傷病者の救急活動	事前学修：JPTECガイドブック・テキスト、第Ⅲ編 第6章「四肢外傷・骨折」を予習する。 事後学修：コンパートメント症候群の早期認識と対処を復習する。	60	60	
55	想定訓練 (腹痛・吐血・下血) 消化器系疾患のショック判断と処置	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「腹痛・吐血・下血」および第5章「消化器系疾患」を予習する。 事後学修：消化器系緊急疾患のショック判断基準を整理する。	60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
56	想定訓練(腰痛・背部痛・大動脈解離疑い) 腰痛・背部痛から大動脈解離を鑑別する救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第4章「腰痛・背部痛」・第5章「大動脈疾患」を予習する。 事後学修:緊急性の高い腰背部痛のレッドフラグサインを整理する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
57	想定訓練(頭部外傷・脳損傷) 頭部外傷・脳損傷傷病者の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第6章「頭部外傷・脳損傷」を予習する。 事後学修:頭蓋内圧亢進の3主徴と処置方針を復習する。			
58	想定訓練(胸部外傷・緊張性気胸) 胸部外傷・緊張性気胸の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第6章「胸部外傷・気胸・血胸」を予習する。 事後学修:緊張性気胸・開放性気胸の鑑別と処置を復習する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭 橋本 美菜
59	想定訓練(小児救急・高齢者救急の特殊対応) 小児・高齢者傷病者への特殊対応訓練	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「13 小児・15 老人の救急疾患」を予習する。 事後学修:小児・高齢者の処置量計算と特殊対応を整理する。	60	60	
60	想定訓練(妊娠合併症・異常分娩) 妊娠合併症(子癇発作・前置胎盤・常位胎盤早期剥離)の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「14 妊娠・分娩(異常)」を精読する。 事後学修:妊娠合併症の緊急度判断と処置フローを復習する。	60	60	
61	想定訓練(精神障害・DV・特殊対応) 精神障害傷病者・暴力被害者等の特殊対応訓練	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「精神障害者の救急対応」を予習する。 事後学修:精神障害傷病者対応のポイントと安全管理を整理する。	60	60	
62	想定訓練(上部消化器疾患・消化管出血) 吐血・消化管出血の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「消化器系疾患・消化管出血」を予習する。 事後学修:消化管出血のショック評価と輸液管理を復習する。			
63	想定訓練(代謝・内分泌系疾患・肝機能障害) 糖尿病性ケトアシドーシス・肝性脳症等の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「代謝・内分泌系疾患」を予習する。 事後学修:DKAとHHSの鑑別・処置の違いを整理する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭 橋本 美菜
64	想定訓練(泌尿器・生殖器系疾患) 尿路結石・腎不全・泌尿器系緊急疾患の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「泌尿・生殖器系疾患」を予習する。 事後学修:腎不全の緊急透析適応基準と観察を復習する。			
65	想定訓練(眼・耳・鼻・皮膚疾患・外傷) 五感・皮膚系疾患・外傷の救急活動	事前学修:テキスト第Ⅲ編 第5章「眼・耳・鼻・皮膚系疾患」を予習する。 事後学修:各部位の外傷処置の手順と注意点を復習する。			

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
66	想定訓練（全脊柱固定の精度確認） 脊柱損傷の高難度固定シナリオ	事前学修：JPTECガイドブック「全脊柱固定」の手順を再確認する。 事後学修：全脊柱固定の自己評価チェックリストで振り返りする。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
67	想定訓練（環境障害・急性中毒・代謝性疾患） 農薬中毒・CO中毒・薬物乱用の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第7章「急性中毒・環境障害」を精読する。 事後学修：主な中毒物質の症状・処置・解毒薬を整理する。			
68	想定訓練（神経系疾患・中枢性） 重篤な神経系疾患（重症てんかん・脳炎等）の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「神経系疾患」を精読する。 事後学修：神経学的緊急疾患の観察・処置フローを整理する。	60	60	
69	想定訓練（呼吸系疾患・上気道緊急） 喉頭蓋炎・クループ・気管支痙攣の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「呼吸系疾患（上気道）」を予習する。 事後学修：上気道緊急症への気道確保選択基準を復習する。	60	60	
70	想定訓練（循環系疾患・不整脈・心不全） 致死性不整脈・急性心不全の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「循環系疾患・不整脈・心不全」を予習する。 事後学修：致死性不整脈のアルゴリズムを再確認する。	60	60	
71	総合演習① 内因性疾患・外因性疾患想定	事前学修：代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。 事後学修：シミュレーションⅠ、Ⅱと今までのシミュレーションで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。	60	60	
72					
73	総合演習② 内因性疾患・外因性疾患想定 気管挿管等プロトコル準拠と適切な隊活動 (効果確認)	事前学修：代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。 事後学修：シミュレーションⅠ、Ⅱと今までのシミュレーションで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。	60	60	
74					
75					
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（演習 実技 グループディスカッション）				
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治（総監修）、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治（総監修）、晴れ書房 『標準多数傷病者対応MCLSテキスト』一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房				
参考文献	『E. M. T Support Book』山本保博（監修）、東京法令出版				
備考	進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。シミュレーションⅠ、Ⅱと各項目の内容を含めた効果確認を行う場合がある。授業時の服装は指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。公安職・医療従事者をを目指す学生として相応しい整容で授業に臨むものとする。フィードバックは、各項目の終了後適宜実施する。授業内課題は授業後感想等（20％）で評価する。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。
- ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-04				
		●	●	●	●					
科目名	救急救命シミュレーションⅣ				単位 認定者	堀口 雅司		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	5 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		150 時間	受講態度
						授業回数	75 回			
授業の概要	救急隊を編成して様々な想定によるシミュレーションを行い、「救急救命シミュレーションⅠ」「救急救命シミュレーションⅡ」「救急救命シミュレーションⅢ」で修得した技術を向上させる。一連の救急救命活動について、出場、救急現場、観察、処置、搬送、医療機関収容等、総合的な訓練を実施し、より高度な資材、機材の使用法や注意点等の理解も図る。具体的な救急救命活動のシミュレーションにより、救急救命士として活動できる、実践的な能力や技術を身につけ、救急救命士としての倫理観を養う。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションⅠからⅢで修得した知識、技術を踏まえ、緊急度・重症度の判断力を中心とした内容を修得する。 ・各班でプロトコル・活動基準を考慮した救急現場活動を理解する。 ・国家試験出題基準に沿う知識・技術を統合し、実践できる。 ・OSCE形式評価に対応し、時間内に安全で適切な処置を実施できる。 ・根拠に基づく口頭説明（同意・引継ぎ）ができる。 ・チーム医療の中で指導的役割を担う意識をもって行動できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・演習はペアまたは小グループで行う。 ・授業は主に実技を実施するので指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。 ・救急救命士標準テキスト等を持参する。 ・演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。 ・事前にテキストやUNIPAへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。 									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	国家試験・実技評価（OSCE） 方針説明／学習計画（弱点分析）				事前学修：国家試験出題基準の確認。 事後学修：個別学習計画を作成。		60	60	堀口 雅司 横山 亜矢	
2										
3	基本手技・評価 (BLS/ALS／気道・呼吸管理)				事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。		60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜	
4										
5										

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	病院内における救急救命士の役割と活動 (院内救急/ドクターカー同乗/病院内特定行為)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
7					
8	循環・呼吸OSCE (心肺停止・不整脈・呼吸不全)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
9					
10					
11	病院内での救急救命士の活動 (ER・院内急変対応・ドクターカー同乗シミュレーション)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢
12					
13	外傷OSCE (初期評価・止血・固定・ショック)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
14					
15					
16	病院内における救急救命士の活動 (病院間搬送・ICU/HCU連携・重症患者管理)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
17					
18	神経OSCE (脳卒中・けいれん・意識障害)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
19					
20					
21	特定行為・気道管理・循環管理 重点整理	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
22					
23	中毒・環境障害OSCE	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
24					
25					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
26	外傷救急・JPTECプロトコール 重点整理 (多発外傷・骨折・熱傷等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭 菊地 芽唯
27					
28	小児・周産期・高齢者OSCE	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭 橋本 美菜 菊地 芽唯
29					
30					
31	神経救急・意識障害・内科疾患 重点整理 (脳卒中・てんかん・内分泌疾患)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
32					
33	OSCE総合演習 (技術評価：気道確保)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
34					
35					
36	災害医療・MCLS・CBRNE・救急医療システム 重点整理 (災害関連頻出項目)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一
37					
38	OSCE総合演習 (技術評価：循環管理)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭 橋本 美菜
39					
40					
41	OSCE総合演習 (技術評価：現場活動手順)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭 橋本 美菜 菊地 芽唯
42					
43					
44					
45					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
46	全分野横断重点整理 (主に観察評価・気道管理・呼吸・循環管理・病態生理)	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
47					
48	OSCE総合演習 (全技術・判断の総合演習)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 橋本 美菜
49					
50					
51	全分野横断重点整理 (主に外傷救護・内因性疾患・災害医療・感染防護・医療安全・救急活動記録・病院前救護システム)	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
52					
53	OSCE総合演習 (コミュニケーション・倫理観の総合演習)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
54					
55					
56	症候別アプローチ (意識障害・頭痛・けいれん・運動麻痺・めまい・呼吸困難・喀血・一過性意識消失と失神・胸痛・動悸・腹痛・吐血・下血・腰痛・背部痛・体温上昇等)	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 佐藤武諭毅 橋本 美菜
57					
58					堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
59					
60					
61	総合演習① (心肺停止：呼吸系・循環系・消化器疾患・その他、呼吸不全・心不全、ショック・血液分布異常性ショック等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 佐藤武諭毅 橋本 美菜
62					
63					
64					
65					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
66	総合演習② (重症頭蓋内損傷・脳卒中、産婦人科・小児・異常分娩、呼吸不全・心不全、ショック・アナフィラキシー、意識障害・頭痛・環境障害等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ループリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭 橋本 美菜
67					
68					
69					
70					
71	総合演習③ (腹痛・消化器系疾患、泌尿器・婦人科疾患、神経疾患、代謝疾患、精神疾患・自殺企図等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ループリック)と弱点補強を実施。	60	60	
72					
73					
74					
75					
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(演習 実技)				
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『標準多数傷病者対応MCLSテキスト』一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房				
参考文献	『E. M. T Support Book』山本保博(監修)東京法令出版				
備考	各回の終了後にフィードバックと振り返りを実施する。服装・整容・安全管理は指示に従い、実習用資機材・人形は実傷病者として尊重して取り扱う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置・判断を実施できるよう指導する。
- ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。